

令和元年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人山口大学

1 全体評価

山口大学は、地域の基幹総合大学として、更なる教育研究の発展・充実を目指しつつ、地域に根ざした社会連携を進め、アジア・太平洋圏において独自の特徴を持つ大学へと進化していくことを目指している。第3期中期目標期間においては、国際標準に沿った教育の展開、科学技術イノベーション創出、文理融合分野の創成、地域の『知』の拠点としての地方創生の牽引、歴史・文化・民俗・言語・宗教等の違いを超えた「ダイバーシティ・キャンパス」の実現等に取り組み、イノベーションを生み出す人材を育成すること等を基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、経営系の社会人教育に対応して、経済学研究科の中に新たに3つの教育プログラムを追加しているほか、医学系研究科においては、全国初の「臨床培養士制度」の認定を受け、再生医療・細胞療法コースを設置するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、令和元年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

○ 令和元年6月に国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構との起業家支援に関する相互協力の覚書締結により、大学発ベンチャーの創出、ベンチャー支援人材の育成等を連携して推進する体制を整えている。令和2年1月には、地域発ベンチャーの立ち上げ及び成長の支援を通じて、地域における新たな産業基盤の創出と知の集積を図り、持続的なエコシステム構築を目指して、地元金融機関（株式会社山口フィナンシャルグループ）との共同でスタートアップ企業を育成・支援する取組を開始している。

（ユニット「地方創生のための若年層の地元定着に向けた取組」に関する取組）

○ 共同獣医学部において、欧州獣医学教育機関協会（EAEVE）の評価基準への対応のため、伴侶動物と産業動物の臨床実習、病理解剖実習、食肉衛生検査実習についてHands-on実習（学生が実際に手を動かす実習）を充実させている。令和元年度においては、中期計画を1年前倒しし、令和元年6月には本審査を受審し、令和元年12月12日にアジアで初めて「Accreditation status『適合』」（完全認証）の結果報告を受けている。（ユニット「大学のグローバル化に向けた取組」に関する取組）

2 項目別評価

＜評価結果の概況＞	特筆	一定の 注目事項	順調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載13事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

令和元年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 若手教員の研究力強化の取組

学術分野に対して特筆すべき研究実績のある若手教員に対し、早期に教授職となる機会を与え安定的に研究に専念できるようにすることを目的とした「戦略的教授昇任制度」を創設し、令和2年4月に3名の若手教員を登用している。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載6事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載2事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

令和元年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ アジア初となる欧州国際水準の獣医師育成教育機関に認定

山口大学共同獣医学部及び鹿児島大学共同獣医学部は、獣医学教育の欧州国際認証である欧州獣医学教育機関協会（EAEVE）認証を令和元年12月にアジア地域として初めて取得し、国際水準を満たす教育体制の整備、カリキュラムの改善、教育コンテンツの充実に取り組んでいる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理・環境配慮 ③法令遵守等

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載8事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

令和元年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 多様な財源を活用した整備

ダイバーシティ・キャンパスの実現に寄与する施設として、留学生を含む全ての学生をトータルサポートする機能を備えた「新福利厚生施設（FAVO：ファボ）」を、民間事業者からの寄付（約4億6,000千万円）によりオープンしている。また、運営に関しては、運営事業者から得られる施設利用料を施設維持管理財源として確保し、大学経営基盤の強化を図っている。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

令和元年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 文理融合組織の特色を生かした研究を通じた国際貢献

様々な分野の研究者が在籍する文理融合組織の時間学研究所において、モスクワ大学や国際時間学会会長との積極的な国際的人材交流等、国外も含めた研究者同士のネットワークを広げるための研究活動を行うなど、全学的に国際連携活動を推進したことにより、国際共著論文数は、平成26年度の179件に対し、令和元年度は227件と26.8%の増となり、中期計画に掲げる目標値（10%増加）を大幅に達成している。

附属病院関係

【医学部附属病院】

（教育・研究面）

○ 献体を用いた臨床手技トレーニングのための体制整備

研修医や専攻医を中心とする外科系の若手医師や外科系志望の医学生への教育体制を一層充実させるため、平成31年4月に附属病院医療人育成センターに新たにサージカルトレーニング部門を設置し、献体を用いた臨床手技トレーニングのための体制整備を行っている。

（診療面）

○ 患者支援センター設置による地域医療連携の強化

医療・保険・福祉等地域医療機関との連携拠点として「患者支援センター」を平成31年4月に設置し、他の医療機関からの事前予約体制を整備したところ、FAX予約件数が対前年度比683件増加、新規外来患者も635名増加し、また、地域の医療機関に「連携医療機関認定証」を発行し、一般的な外来診療が可能な患者を地域医療機関に誘導しやすい環境整備を図り、逆紹介率も年々増加し80.4%となるなど、地域医療機関との連携を強化している。

（運営面）

○ 働き方改革の推進

小串キャンパス独自の勤怠管理システムの導入及び仕様の決定、各診療科へのドクターズ・クラークに関する調査結果を受けて15名のドクターズ・クラークの増員、労働時間と自己研鑽を示す「医師・歯科医師の労働時間ガイドライン（案）」及び「運用ガイドライン（案）」の策定等を行うなど、働き方改革を推進している。